

国際青年

2022年(令和4年)7月1日発行

第51号

埼玉国際青年を育てる会・会報

Saitama Association for International
Youth Volunteers



就任挨拶

会長 時田 巖

令和2年、まさしくパンデミックが始まるとは同時に埼玉国際青年を育てる会会長を拝命いたしました。会員の皆様にご挨拶をすることができないまま時間が経過してしまいましたが、この度ニュースレターという場をお借りし、遅ればせながら改めてご挨拶を申し上げます。

青年海外協力隊との縁はトキタ種苗の2代目社長であった父、時田 勉から受け継いだものです。父は元々海外志向が強く、海外市場開拓を目指す中で協力隊のことを知り、早くから経験者の継続の採用を始めました。現在も16名の元隊員がトキタ種苗に在籍しています。この協力隊との歴史があってこそ今回の任をいただいたものと光栄に思い、その名の通り国際的な若者が一層活躍できる社会へできる限りの貢献をしてみたいと思います。

本年度はついに青年海外協力隊の春募集が再開され、大変うれしいニュースとなりました。しかし一方で国際情勢に目をやれば、パンデミックを乗り越えようやく世界が前進しつつあると感じた矢先、ロシアがウクライナに侵攻し世界中に大きな衝撃をあたらしました。

悲観的になる要素は数え切れません。しかしこのような情勢の中で平和、気候変動等の国際的な問題に対する世界中の若者の団結力・行動力には目を見張るものがあります。こんな時代においてこそ、若者がグローバルな視点を持ち、外へ向かうことを恐れない社会であるよう、会員の皆様のご指導を賜りながら会の活動に尽力してまいりますと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。



「いま」を生きる

—リレーした会長職—

顧問 星野和央

それは、2002年5月のことでした。不肖の私が前会長・竹内克好氏の後任として承認されたのは、ビジョンのある本会の第2代目の会長職でした。この会は単に青年海外協力隊のみならず、「国際青年を育くむ」壮大ともいえる背景に、数年の準備期間を経て1994年6月に委員10名による設立準備委員会が発足、1995年10月に本会の前身である「さいたま国際青年を育てる会」が設立されました。

会の柱は、①「国際的な活動に目を向けられる青年を育てること」②「開発途上国における青年海外協力隊としての経験を語る活動を進めること」③「埼玉にゆかりのある協力隊員は足元埼玉を見つめながら人間として行動すること」の3本でした。もちろん協力隊OB・OGとの連携が大切なことが前提です。

幸い、会の活動は順調に進展して2015年には創立20周年の式典を行うことができました。活動のなかでも、当会会報の「国際青年」に掲載している協力隊員の「現地レポート」は寄せられてくる投稿も多く、私たちの役割も勇気づけられます。ただ残念なのは帰国隊員の日本での「体験を語る出前講座」が、受け入れる小中学校のカリキュラムとOB・OGとの時間調整が上手くいかず、行事が先細りの感が拭えないことです。そのため、協力隊経験者と育てる会が更に連携しあうことが課題の一つといえるかもしれません。

新会長になられた時田巖氏は国内のみならず海外での事業に意欲的な方です。真の国際青年を育くむ組織の責任者として会員全員で支えていくではありませんか。

・2021年度定期総会報告 2
・2021～2022年度役員紹介 2

・2021年度育てる会活動報告 3
・事務局だより 4

★ 2021 (令和 3) 年度定期総会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国際交流基金・日本語国際センターにて例年開催している定期総会にかえて、2021年5月29日発送にて書面表決を行いました。

「書面表決決議」

1. 議案第 1 号 2020 (令和 2) 年度事業報告について
2. 議案第 2 号 2020 (令和 2) 年度決算報告について
3. 議案第 3 号 2021 (令和 3) 年度事業計画について
4. 議案第 4 号 2021 (令和 3) 年度予算について
5. 議案第 5 号 役員を選任について

第 1 号・全体報告

2020 (令和 2) 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動に制約が生じ、壮行会等の主な事業を実施することが出来ませんでした。

第 2 号・決算報告

2020 (令和 2) 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、事業の実施ができなかったことによる支出の減少がありました。カレンダーの作成・発送等の支出は例年通りでした。

第 3 号・事業計画について

2021 (令和 3) 年度は、新型コロナウイルスの終息は見通せませんが、事業計画としては、活動の再開がいつまでもできるように計画しました。

第 4 号・予算について

2021 (令和 3) 年度は、新型コロナウイルス終息は見通せませんが、事業計画が再開した場合に必要な予算を措置しました。

第 5 号・役員を選任について

現会長 (20 年間会長職) は高齢のため後進に道を譲りたいとのことにより、当会の円滑な運営のために、顧問への就任をお願いしました。

新会長は企業経営者であり、大勢の青年海外協力隊経験者とともに働いている方です。

欠員の副会長職を補充しますが、当会と OB 会との連携を配慮しました。

常任理事及び理事の変更は、会の円滑な運営のためです。

退任者については、高齢等の一身上の都合によります。

ご提出いただいた書面表決書のうち賛成が過半数を超えましたので、可決とさせていただきます。

2021～2022 (令和 3～4) 年度

「埼玉国際青年を育てる会」役員

会 長	時田 巖	(トキタ種苗株式会社 代表取締役社長)
副会長	瀬島 孟	(せじま動物病院院長)
＊	榎本 敬	(青年海外協力隊 埼玉県 OB 会会長)
常任理事	山田 洋	(フリーライター)
＊	小室駿一郎	(元埼玉県立大宮東高等 学校長)
＊	中島美都里	(専業主婦、キャリアコン サルタント)
＊	川嶋 清	(会社顧問)
理 事	小島章裕	(元福川市立福川小学校長)
＊	高野直明	(シルクロードの砂漠と文化 研究会員)
＊	紀内央子	(生きがい彩の会元会長)
＊	大野信一	(青年海外協力隊 埼玉県 OB 会理事)
＊	町田 純	(塚越剣友会会長)
＊	小久保正雄	(元埼玉県国際理解教育 研究会会長、元戸田市 立戸田東小学校長)
＊	細川邦子	(元さいたま市議会議員)
＊	藤野龍宏	(元埼玉県産業文化財調査 事業団理事長)
＊	黒須琢也	(元埼玉県国際理解教育研 究会会長、元越谷市立大 相模小学校長)
＊	井上泰一	(税理士)
＊	深澤孝忠	(前埼玉県国際理解教育研究会 会長、前上尾市立大谷小学校長)
＊	北田裕一	(埼玉県国際理解教育研究会会長)
＊	野村 昇	(元インドネシア・在デン バサル日本国総領事)
＊	井上 匡	(トキタ種苗株式会社 総務経理部経理部長)
理事・事務局長	矢部保雄	(元埼玉県立歴史と 民俗の博物館館長)
理事・事務局長	酒井幸枝	(元埼玉県身体障害 者福祉協会事務局長)
＊	佐々木花野	(トキタ種苗株式会社 海外事業本部係長兼社長秘書)
監 事	小林輝一	((株)ワンダーライフ社長)
＊	板倉克己	(元(公財)埼玉県学校給食会 理事長)
顧 問	星野和央	((株)さきたま出版会会長)

● 2021年度 育てる会活動報告 ●

1. JICA 青年海外協力隊員
オンライン帰国報告会

- 開催日時：2021年12月22日（水）15時00分～
- 発表形式：オンライン報告会形式
各隊員20分発表（発表15分+質疑5分）
- 埼玉県帰国報告者
■伊井 誠（さいたま市）
2021年9月一般短期通常派遣
タイ・コンピュータ技術

今回の活動（2021/6～2021/12）

- プログラミングの授業のチームティーチング
(オンライン、オンサイト)
- Unity(ゲーム開発ツール)のワークショップ
- Unityのタイ語の動画制作

活動先 プリンセステュラポーシヤエンスハイ
スクールビジネスローク校



- 男女共学全寮制の中高一貫校
- 理系エリート校
- 1クラス生徒24人、全校720名
- 姉妹校がタイ全土に12校

地域に根差して優秀な学生を育てる方針の学校



2. JICA 青年海外協力隊「社会還元促進費制度構築説明会」

- 開催日時：2022年3月3日（木）
18:30～19:45
- 説明形式：オンライン説明形式

- 説明者：JICA 青年海外協力隊事務局
- 出席者：(1)各地域の育てる会の皆様、
(一社)協力隊を育てる会の皆様
(2) JICA 青年海外協力隊事務局
及び国内機関関係者
- 内容：(1) コロナ禍における JICA 海外協力隊事業の動向の説明
(2) 社会還元促進費制度及び人財バンクの説明
(3) 質疑応答
- 資料：(1)「協力隊事業の現状と国内での取組み方針」
(2)「社会還元促進費制度構築説明」

3. JICA 青年海外協力隊員
オンライン帰国報告会

- 開催日時：2022年3月15日（火）15時00分～
- 発表形式：オンライン報告会形式
各隊員が20分（発表15分+質疑5分）
- 埼玉県帰国報告者
■矢部 紘（上尾市）
2019年度2次隊・中国・日本語教育
(中国ODA終了に伴う、最後の協力隊員となります)



※写真は2022年2月17日にNスタ(TBS)で紹介されたときの映像です。

■事務局より

緒方貞子さんのことば

「世界へ出ていく若者たちへ」

(日本人初めての国連難民高等弁務官として、1991年から2000年まで10年間の任期を務める)

ヨーロッパの穀倉地帯といわれていた黒海の北側、ウクライナ平原は世界でも肥沃な土地といわれ、理想的な土壌が生成されている。我が家の家庭菜園の土壌改良の目標です。

今般、世界情勢は混とんとしており、ウクライナからのポーランドをはじめとする近隣諸国への難民は数百万人へのぼり、難民問題の解決は急務の課題です。

ロシアによるウクライナへの侵攻は、我が国にも影響があり、ウクライナ難民の受け入れや、ロシア産木材の輸入禁止等様々な影響が出ています。さて、緒方貞子氏は63歳のとき国連難民高等弁務官としてスイスのジュネーブに赴任しました。1927年(昭和2年)生まれ、1976年(昭和51年)より3年間、国連日本政府代表部公使、特命全權公使を務め、1991年(平成3年)より国連難民高等弁務官として難民支援活動に取り組みました。

緒方貞子氏は次のように述べています。

「最近、日本全体が内向きになっています。しかし、日本は、国際的な基盤なしには暮らせない

国です。このグローバル化の時代、モノもカネもヒトも危険も動く。隣の国、周辺の国、あるいは遠い国の政治状況が自分の国にもかかわっているということ意識することが非常に重要です」また、「世界へ出ていく若者たちへ」ということで次のようにも述べています。

「人間は仕事を通して成長していかなければなりません。その糧となるのは好奇心です。常に問題を求め、積極的に疑問を出していく心と頭が必要なのです。仕事の環境に文句をいう人はたくさんいますが、開かれた頭で何かを求めていく姿勢がなければなりません。日本のあらゆる若い世代に、何でもみてやろう、何でもしてやろうという姿勢を意識的に持ってもらいたいと思います」

グローバル化の進んだ現代社会では、世界情勢が日本経済に大きな影響を与えるため、個々の国の課題だけを考えているのではなく、世界の経済社会の変化を掴む必要があります。

今日、ソマリアなど東アフリカ各国においては干ばつにより食料危機に陥っている。ロシアとウクライナの小麦輸出は世界全体の3割を占め、両国に依存する国がアフリカには多い。そのため小麦の価格上昇ということで食糧難にさらに追い打ちをかけています。

私たちは、今どのように生きるのが問われています。

(事務局長 矢部保雄)

「埼玉国際青年を育てる会」年会費納入のお願い

令和4年度の年会費の納入をお願いいたします。尚、令和3年度の年会費を未納入の方は、併せて納入をお願いいたします。

1. 年会費

- (1) 個人会員：¥ 3,000 円 (1口)
- (2) 団体会員：¥10,000 円 (1口)
- (3) 法人会員：¥20,000 円 (1口)
(いずれも1口以上)

2. 納入方法

- (1) 銀行名：ゆうちょ銀行
- (2) 店名：〇一九店(ゼロイチキョウ店)
- (3) 口座番号：0663484
- (4) 加入者名：埼玉国際青年を育てる会

3. JICAが発行する青年海外協力隊関係の月刊誌「クロスロード」を希望される方は、年間送料¥2,000円を併せて納めて下さい。

■編集後記

紙面は縮小されましたが、今回も無事に発行することができました。ご協力いただきました皆様心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響が色濃く残る中、ロシアによるウクライナへの侵攻を機に、世界は分断と軍備拡大の方向へ進もうとしています。

「平和」は当然のことのようにそこにあるのではない。強く求めなければ壊れてしまうものだと感じる今日この頃です。

(広報委員長 中島美都里)

・発行：埼玉国際青年を育てる会
・編集：広報委員会
・事務所：埼玉県鴻巣市下谷 1576
矢部 保雄
TEL・FAX 048-543-1355
E-mail: yasuo.y08@gmail.com
・http://www.7bbiglobe.ne.jp/~saitamakokusaisainery/